

(国語)

「読みを深める指導法の探求」

—「国語科説明文教材の授業づくりを通して」—

大阪市立難波元町小学校 春本 香絵子

1. 研究主題設定の理由

高度情報化が進み、大量の情報に溢れている今、その内容を的確に読み取り、自分が必要とするものを状況に応じて選択し、活用していく能力が求められている。

その課題を受け、新学習指導要領では、基礎的・基本的な知識や技能の習得はもとより、それらを活用し、課題解決できる思考力、判断力、表現力や主体的に学習に取り組む態度などが求められている。

また、本校児童の実態からも、諸調査の結果や授業の様子から、問題を読み取ったり、必要なことを読み取りまとめたりすることが苦手な児童が多い。国語科の学習において、「読む力」を身に付けさせる指導をしているにもかかわらず、実生活の中で生きてはたらいているとは、言い難い傾向にある。指導者においては、国語科の授業に難しさを感じており、児童が学ぶ喜びを感じるような授業をつくるにはどうすればよいのか悩みをかかえている状態である。

そこで、本校では、平成29年度より、研究教科を国語科に定め、研究主題を「読みを深める指導法の探求～国語科説明文教材の授業づくりを通して～」として、研究・実践を進めてきた。

研究2年目となる本年度も、各教科の学習の基礎となる「読む力」に焦点をあて、説明的文章(以下、説明文とする)の指導を通して読みを深める指導法を探求することにした。各学年で、どのような「読む力」を育てればよいのかを明確にし、児童が意欲的に学習に取り組み、着実に「読む力」を身に付けることができる授業づくりの研究を進めた。また、言語活動の充実を図ることで、実生活で生きてはたらし、各教科の学習の基礎となる「読む力」も身に付けていくことも必要である。これらのことから、研究主題を「読みを深める指導法の探求～国語科説明文教材の授業づくりを通して～」と設定した。

2. 研究の視点

研究主題に迫るため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 身に付けさせたい力を明確化し、ふさわしい言語活動の位置づけを図る。

国語科説明的文章の単元において、付けたい国語の能力を明確にし、それにふさわしい言語活動を指導計画の第三次に位置づける。その際、「どんな言語活動を行うのか」「その言語活動の特徴は何か」「単元の目標実現にどのように結びつくのか」ということを意識しながら指導計画を立てることにした。

視点② 伝え合う力を高める工夫

子どもの内なる気づきやイメージを確かな思考に高めるために、他者とのコミュニケーションは重要である。伝え合う力を高めることが思考力向上の鍵になると考え、研究の視点として取り上げる。そのために、大切にしたい観点が以下の2点である。

- ・ 一人一人の言語活動量を確保するために、少人数での対話型の言語活動を重視する。
- ・ 伝え合い活動の場面において、子ども一人一人が自分の意見を持ち、その後に理由や根拠を挙げながら表現することを大切にする。

視点③ 学校全体での取り組みの充実

- ・ Nメモ（なんもとメモ）⇒全校朝会の校長先生の話を取り取る。
- ・ 読書タイム⇒毎週木曜日の朝の会で、全校で読書に取り組む。
- ・ お話タイム⇒毎週金曜日の朝の会や集会で全校児童に放送などでスピーチをする。
- ・ 学校行事⇒学芸会・終業式のスピーチ（台詞の言い方・声の大きさなど）

3. 研究の成果と課題

（１）成果

【視点①】

- 研究する内容を「説明文」一つに絞ったことで、１年生から６年生までの発達段階に応じた指導の方法を系統立てて考えることができた。
- ゴールを見据えて焦点化した指導ができるようになり、子ども達の主体的な学びが保証され学習意欲の高まりがみられた。
- 昨年の授業研究した内容を検証したことで、課題をどのように修正し改善することができるのかが明確になった。
- 昨年の授業と比較検証できたことで、授業を終えた指導者からの経験をふまえた意見や授業を控えた指導者からの質問など、活発な討議が行われるようになった。
- 受け身ではなく自分たちの学びがどうであったかを考え、主体的に学ぶ姿勢づくりができた。

【視点②】

- 友達の意見との共通点や相違点が明らかになり思考力を高めることができた。また、交流で自分の考えを友だちに聞いてもらい、意見をもらうことで、自分自身の考えを再構築することができた。

【視点③】

- 国語科だけでなく、学校教育のさまざまな学習でその素地を養うことができた。

（２）課題

- 言語活動の特徴をふまえ、つけたい力と言語活動のさらなるマッチングを図り、指導方法を改善し、指導計画の第二次と第三次（言語活動）をより密接につないだ単元構想にすること。
- 言語活動に必要な能力を育てるために発達段階をおさえた系統的な指導を図ること。
- 学習環境（教室環境、図書室、第三次に結びつく読書環境）をさらに整え、子ども達が学んだことを活かしていく場面を他領域、他教科においてもつくること。